

今後症例を重ねて検討する予定である。

### 32. ワードプロセッサを利用した核医学検査レポート リングシステム——その1——

仙田 宏平	小原 健	松原 一仁
岡江 俊治	上村 孝子	柿内 実
児玉 行弘	石口 恒男	改井 修
小林 英敏	大野 晶子	斎藤 宏
佐々木常雄	佐久間貞行	(名大・放)
山王堂英男		(東芝メディカル)

核医学検査におけるレポートリングの省力化、規格化などの目的で日本語ワードプロセッサを利用したシステムを検討した。

使用した装置は東芝製の日本語ワードプロセッサ JW-10/2 で、平仮名語の漢字変換、訂正、挿入、削除または移動モードによる文章の校正、あるいは枠あけモードなどによる文章の編集が可能である。文章はすべてフロッピー・ディスクに個別ファイルされ、必要に応じてそのコピーが可能であった。レポートリングの手順は、まず、検査別の中間ファイル文章を作成・登録しておき、報告書作成時にこの文章を呼び出し、字句の削除や挿入による校正ならびに編集を行い、そのコピーを打ち出して、最後に図を記入した。得られた報告書は患者名、病歴番号、検査術式、所見、診断名など莫大な内容を含むが、全体として大変読み易かった。また、中間ファイル文章によって、報告書内容が規格化されているので、所見の読み落としや記述内容漏れが防げた。さらに、記述項目のコード化によって、患者ファイルの蓄積ならびにデータ検索が可能であることが分かった。今回の検討での問題点として、一部の報告書作成に 15 分程度の時間を要したことである。しかし、この問題点は個有名詞の登録化、ライトペンの使用、基本図の印刷化などによって解決可能と考えた。

今後、これら問題点を解決するとともに、データ検索方法の確立についても検討する予定である。

### 33. Chemotherapy rat における RI 体内分布の変化 ——その1——

宮岸 清司	油野 民雄	大口 学
利波 紀久	久田 欣一	(金大・核)

化学療法中の患者で、 $^{67}\text{Ga-citrate}$  や  $^{99\text{m}}\text{Tc-MDP}$  など種々の RI の体内分布の変化についての報告が認められる。今回、Chemotherapy rat において、 $^{67}\text{Ga-citrate}$  と  $^{99\text{m}}\text{Tc-MDP}$  を対象とした場合いかなる RI 分布の変化が生じるか検討した。使用した化学療法剤は、Cisplatin, Gentamycin, Adriamycin, Daunomycin, Mitomycin C, Bleomycin であった。rat への投与量は、体表面積当たりの量が、人体投与時とほぼ等しい量である。化学療法剤処理後 3~5 日後に  $^{67}\text{Ga-citrate}$  静注し、21 時間後に  $^{99\text{m}}\text{Tc-MDP}$  静注し、その 3 時間後に解剖を行い、血液、心臓、肺、肝臓、脾臓、胃、右の腎臓、左の腎の皮質と髄質、筋肉、脛骨を取り出し、 $^{67}\text{Ca}$  と  $^{99\text{m}}\text{Tc}$  の放射活性を測定し、それぞれ投与量の % dose per g tissue を求めた。 $^{67}\text{Ga-citrate}$  では、Cisplatin, MMC Belomycin で、Control と比較し、2~1.5 倍の肝への集積、Cisplatin, Adriamycin, Daunomycin, MMC では、5~1.5 倍の腎への集積増加を認めた。 $^{99\text{m}}\text{Tc-MDP}$  では、Cisplatin は、Control と比較し、2.5 倍の肝への集積増加 Cisplatin, Daunomycin, MMC は約 2 倍の腎への集積増加を認めた。

### 34. Obstructive Uropathy における腎 RI-angiography

油野 民雄	多田 明	道岸 隆敏
利波 紀久	久田 欣一	(金大・核)

$^{99\text{m}}\text{Tc-DTPA}$ ,  $^{99\text{m}}\text{Tc-DMSA}$  による腎 RI 検査施工時の腎 RI-angiography の必要性は従来より強調されているが、Obstructive Uropathy における腎 RI-angiography の報告は少なく、僅かに一昨年の Radiology 誌に掲載された McAfee らの paper をみるのみである。そこで、今回、Obstructive Uropathy にてどの程度腎 perfusion の変化が生じるのか検討した。

Obstructive Uropathy 33 例で腎の perfusion の変化(血流減少)を認めたのは 70% であり、腎盂腎杯系の異常 (85%), DTPA の obstructive pattern に比較すると出現率が低い成績を示したものの、腎の大きさの変化、腎への RI 集積の変化と比較すると高い成績を示した。